



ビルダーの自由な発想を示す
新旧の要素が混在するスタイル。

HOLE SHOT

(CUSTOM FRONT LINE)

text/M.Watanabe 渡辺まこと photo/S.Sawada 澤田聖司
シュアショット TEL043-312-0900 www.sureshot.jp



プロアームながら、あえての右側チェーン装置はビルダーいわく視覚的効果を狙ったとのこと。実験的な試み、である

(DETAIL)



コントロールバーとテーパーハンドル上にはオートメーターが鎮座。タンクから付き出したファンネルと相まって、コックピットはあたたかもアメリカンレーシングの要素が融合した雪国気質だ



ビレット感をなくすため、ビルダー自身の手によって削り込まれたジュラルミン製トリプルツェンネルと相まって、コックピットはあたたかもアメリカンレーシングの要素が融合した雪国気質だ



エンジンは177年式アイアンショベルのロックカーブをスプリット加工し、個性を演出。カムはアンドリュース製を内蔵し、キャブはウェーバーをダウンドラフトスタイルで装着する



マシンに個性を与えるポイントとなるキャブを可能な限りスリムな形で装着する為、タンクもご覧のとおり大胆なデザインでフィニッシュ。ビンストライプはRIO STUDIOが担当する

願

客から注文を受け、希望に沿ったカスタムを造り出すプロの場合、ビルダー一人の“表現者”として創作意欲を満たす為には、やはり至極当然のこととして「自分のバイクで自由にカスタムを製作する」というスタンスが求められる。

ここに紹介するマシンは、まさににそんな

背景から生み出されたものであり、それゆえか片持ちとなったスイングアームといい、ダウンドラフトとなったウェーバー製キャブといい、その造りはかなり大胆。随所を見て伝わるのはビルダーの自由な意志に他ならないものだ。これぞカスタムの楽しさと可能性を示す一台といえる。



(BUILDER)

「顧客からの注文ではなく自分の乗りたいバイクを自由に造った」との言葉どおり、ここに紹介する一台はビルダー、相川拓也さん自身の愛車。プロとしての意欲を感じる力作だ



トラックーともストリートファイターとも取れるデザインシートはSTUDIO WOKINIの手によるもの。今までありそうでなかった独特の個性が与えられている。ホールド感にも期待だ



大胆な加工でモノサス化されたKフレームにセットされたリアショックはSACHS製。マシンを出来るだけスリムなフォルムにすることを狙ったオイルタンクの造形にも注目である



まるでビューエルのような位置にマウントされたリバースコンマフラーもシュアショットによるワンオフを装着。この処理がマシンのスリムなフォルムと独特な個性の演出に貢献する



ハブのクランプ部とサスマウントを削り出し、スチールの情円パイプを組み合わせたスイングアームもシュアショットによるワンオフ。何と内部にはサブオイルタンクを内蔵するとのこと